

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

◎人とかかわり合いを大切に教育を推進し、豊かな人間性をもった児童・生徒を育てます。
 ○学習の基礎・基本を習得し、それらを活用して、主体的に課題解決する力を育てます。
 ○自他の生命と人格を尊重し、健やかな成長を心がける姿勢を育みます。
 ○様々な人とのコミュニケーションを大切に、地域・社会の一員であることを意識するとともに、グローバル社会へ視野を広げることができるようにします。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<コミュニケーション能力>
 <表現力>
 <情報活用能力>

具体化した資質・能力

・相手意識をもって、伝えたいメッセージや感情を適切に伝え合う力
 ・言葉や言葉以外の手段を用いて、自分の考えや思い等を他者に分かりやすく伝える力
 ・正しい情報を収集、整理、分析し、課題解決に向かう力

中期取組目標

課題解決のために情報を収集・整理・分析し、まとめ・表現する学習活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図り、9年間継ぎ目のない教育を推進する。(3年間を通して)
 ◆ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。
 ◆授業のねらいを児童生徒と共有し、評価・振り返りを通して、指導改善・学習改善を図る。
 ◆表現活動を充実させ、言葉による表現力と言葉によらない表現力を一体的に育成する。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①合同教科会を充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点から、授業づくりや評価の在り方について共通理解を図る。 ②市学力・学習状況調査の結果分析から課題を明確にして、教材や指導方法を工夫し、学力向上を目指す。 ③言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する。
担当	学習指導部・教科会

学力向上に関わる本校の状況

学力は、全体として市の平均と同程度であるといえる。学習意識は技能教科において大きく市の平均を上回っている。生活意識も大きく上回っており、自律した学校生活を送ろうとする意識がある。
 各教科の取組により、基礎・基本の定着を図るとともに、活用力の定着を図ることが必要である。

今年度の目標

■自己肯定感を高め、思考したことを伝え合う子どもを目指した授業改善
 ■9年間の学びの連続性の構築

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○授業や家庭学習をとおして、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」「自主的に学ぶ態度」の育成を目指す。 ○学習の見通しや振り返りを活かした「主体的な学び」の実現。 ○協働学習や課題解決学習をとおした「対話的な学び」の実現。 ○知識・技能を習得・活用しながら自分の考えを形成する学習をとおした「深い学び」の実現。
下半期	○授業や家庭学習をとおして、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」「自主的に学ぶ態度」の育成を目指す。 ○学習の見通しや振り返りを活かした「主体的な学び」の実現。 ○協働学習や課題解決学習をとおした「対話的な学び」の実現。 ○知識・技能を習得・活用しながら自分の考えを形成する学習をとおした「深い学び」の実現。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳・人権教育	①学校教育全体を通して、生命の尊さを考えさせる指導を行う。 ②「考え、議論する」特別の教科道徳の授業を充実させる。 ③児童生徒の交流活動(きりたま)を通して、思いやりの心を育成し、自己肯定感の向上を図る。
担当	人権・道徳・特活担当

豊かな心に関わる本校の状況

・自分から挨拶をすることができ、きまりを守って、落ち着いて学校生活している。
 ・やらなくてはいけないことは、努力することができるが、現状に満足してしまう傾向にある。
 ・交流活動(きりたまタイム)などの時間では上級生が下級生を面倒を見る姿が見られる。

今年度の目標

・全教育活動を通して、発達段階に応じた「自己有用感」の育成に取り組む。
 ・正しい判断力、思いやりの心公共心や社会貢献の意識の伸長を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	・道徳の教科書を活用し、他者のとの交流場面を設定することで、自分の考えを深める。 ・道徳的見方・考え方・感じ方を多様に広げ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身に付けられるようにする。 ・各教科を含む様々な教育活動を通して、生徒が互いに認め合う関係を育て、思いやりの心や自己有用感を育成する。
下半期	○道徳の教科書を活用し、他者のとの交流場面を設定することで、自分の考えを深める。 ○各教科を含む様々な教育活動を通して、生徒が互いに認め合う関係を育て、思いやりの心や自己有用感を育成する。 ○ワークシートのかわりに道徳ノートを作り、年間を通じて授業内容を記録し、見方、考え方、感じ方などを振り返るようにした。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
体育・健康教育	①体力・運動能力テスト、生活意識調査の結果分析をし、課題解決のための運動や健康教育に継続的に取り組む。 ②栄養教諭と連携を図り、小学部・中学部でつながりの食育を推進する。
担当	保健安全指導部・体育部

健やかな体に関わる本校の状況

体力運動能力調査結果より
 ○運動実施時間・回数が減少傾向にある。
 ○筋力・瞬発力・敏捷性が弱い傾向にある。
 ○小・中つながりのある食育となっていない。

今年度の目標

■日々の運動量・回数を増やす。
 ■小・中つながりのある食育を推進する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○サーキットを実施(きりたまアスレチックなど) ○縄跳び、腕立て、腹筋などを実施(学年によって内容、回数、量などは変更) ○スポーツテストの実施により、体力の結果を分析 ○栄養教諭による食育に関する情報発信、きりたま給食の実施
下半期	○サーキットを実施(きりたまアスレチックなど) ○縄跳び、腕立て、腹筋などを実施(学年によって内容、回数、量などは変更) ○前期に実施したスポーツテスト、体力の結果を分析(大学連携) ○栄養教諭による食育に関する情報発信、きりたま給食の実施